

殿

仕 様 書

仕様書番号 FJS-F-2-技-01-147(8)

品 名 TS-S-5C-FB

トリプルシールド同軸ケーブル



富士電線工業株式会社

平成13年 8月17日 制定	仕 様 書 T S - S - 5 C - F B (トリプルシールド同軸ケーブル)	起案作成	技術部
令和 3年 8月 2日 改定		発行責任者	技術部長

1. 適用範囲

この仕様書は、富士電線工業株式会社が製造するトリプルシールド同軸ケーブルの次のサイズについて規定する。

T S - S - 5 C - F B アイボリー

2. 構造

付表1による。

3. 特性

付表2による。

4. 試験方法

4.1 外観

JIS C 3005 (ゴム・プラスチック絶縁電線試験方法) の 4. 1による。

4.2 構造

JIS C 3005 の 4. 3による。

4.3 内部導体抵抗

JIS C 3005 の 4. 4による。

4.4 耐電圧

内部導体と外部導体間について行い、JIS C 3005 の 4. 6 b)による。

4.5 絶縁抵抗

内部導体と外部導体間について測定するものとし、JIS C 3005 の 4. 7. 1による。

4.6 特性インピーダンス

周波数10MHzで、同調法 又は その他適当な方法によって行う。

4.7 減衰量

直接法 又は その他適当な方法によって行う。

4.8 シースの引張り

JIS C 3005 の 4. 16による。

4.9 シースの加熱

JIS C 3005 の 4. 17による。

加熱温度 及び 加熱時間は、JIS C 3005 の 4. 17. 2の表5のBによる。

4.10 シースの耐寒

JIS C 3005 の 4. 22による。

冷却温度は、 -10°C 以下とする。

4.11 屈曲

完成品から適当な長さの試料を取り、 $18^{\circ}\text{C}\sim 28^{\circ}\text{C}$ の室温でケーブル外径の20倍の外径を有するマンドレルに沿って 180° 曲げてこれを原位置にもどし、次に反対方向に 180° 曲げてこれを原位置にもどす。この操作を10回繰り返し替えた後、解体して内部を調べる。

4.12 内部導体と絶縁体の密着

完成品から1m以下の試料をとり、その絶縁体を固定し、 $18^{\circ}\text{C}\sim 28^{\circ}\text{C}$ の室温で内部導体を引張ることによって行う。

引張速度は $100\text{mm}/\text{min}$ または $200\text{m}/\text{min}$ とする。測定値は1mに比例換算する。

5. 包装・荷姿

TS-S-5C-FBは、1条ずつタバ巻又はドラム巻とし、運搬中損傷のない様に適当な荷造りを施す。

6. 環境負荷物質

TS-S-5C-FBは、カドミウム・鉛・六価クロム・水銀及びその化合物を含有していません。

T S - S - 5 C - F B

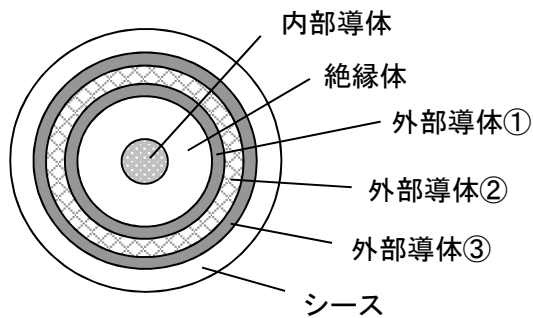
付表 1 構 造

項 目		規 格 値	
内部導体 (軟銅単線)	導 体 径 (mm)	1.05 ± 0.05	
絶縁体 (発泡ポリエチレン)	厚 さ (mm)	1.90	
	外 径 (mm)	約 4.85	
外部導体① アルミ箔貼付け プラスチック テープ (絶縁体に密着)	全体の厚さ 約(mm)	0.05	
	アルミ箔片面の厚さ 約(mm)	0.01	
外部導体② 編 組 (すずめつき 軟 銅 線)	素 線 径 (mm)	0.14	
	持数 × 打数	3 × 24	
	ピ ッ チ (mm)	42 以下	
外部導体③ アルミ箔貼付け プラスチック テープ (シースに密着)	全体の厚さ 約(mm)	0.04	
	アルミ箔片面の厚さ 約(mm)	0.01	
シース (塩化ビニル混合物)	色 相 (mm)	アイボリー	
	厚 さ (mm)	0.95	
	仕上外径 (mm)	7.7 ± 0.3	
概 算 質 量 (kg/km)		62	

表面表示

地上デジタル・BS/CSデジタル・CATV トリプルシールド TS-S-5C-FB FUJI E. W. C

断 面 図



T S - S - 5 C - F B

付表 2 特 性

項 目		規 格 値	試験方法
外 観		キズ、色ムラ等その他異常のないこと	4. 1
構 造		付表 1 による	4. 2
内部導体抵抗 (20°C)		2 1. 1 Ω / km 以下	4. 3
耐 電 圧		交流 1 0 0 0 V に 1 分間耐えること	4. 4
絶縁抵抗 (20°C)		1 0 0 0 M Ω km 以上	4. 5
特性インピーダンス		7 5 ± 3 Ω	4. 6
標準減衰量 (20°C)	10 MHz	21.7 dB/km (最大: 25.0 dB/km 以下)	4. 7
	90 MHz	58.8 dB/km (最大: 67.6 dB/km 以下)	
	220 MHz	95.0 dB/km (最大: 109 dB/km 以下)	
	470 MHz	145 dB/km (最大: 167 dB/km 以下)	
	710 MHz	183 dB/km (最大: 210 dB/km 以下)	
	1489 MHz	284 dB/km (最大: 327 dB/km 以下)	
	2071 MHz	347 dB/km (最大: 399 dB/km 以下)	
	2681 MHz	408 dB/km (最大: 469 dB/km 以下)	
	3224 MHz	459 dB/km (最大: 528 dB/km 以下)	
シースの引張	引張強さ	1 0 M P a 以上	4. 8
	伸 び	2 0 0 % 以上	
シースの加熱	引張強さ	加熱前の値の 8 0 % 以上	4. 9
	伸 び	加熱前の値の 8 0 % 以上	
シースの耐寒		試験片が破壊しないこと	4. 1 0
屈 曲		シース及び外部導体上に、亀裂、破壊及び甚だしい変形など異常がないこと	4. 1 1
内部導体と絶縁体の密着		内部導体が、絶縁体から脱するまでの最大張力は 1 0 0 N / m 以上であること	4. 1 2